

## 2019年度事業報告書

### 【2019年度方針】

- ① 子ども・保護者が安心できるよう職員同士がしっかり連携していく
- ② 明るく健康的な職場づくりを目指す
- ③ コンフリクト（衝突・葛藤・対立）を活用していく
- ④ ICT を適切に活用し、職員の業務軽減に努める
- ⑤ 『時間』を意識し、限られた時間の中でより高い成果を目指す（研修・会議など）
- ⑥ マニュアル作りを進めていく（一定程度の業務がスムーズに継承できるよう）

### 方針についての反省と課題

- ① 子ども・保護者が安心できるよう職員同士がしっかり連携していくについて
  - ・子どもや保護者と保育園が信頼しあい、日々の生活を安心して送っていただけるよう、『緑の家保育園』として大切にしてきたことを職員同士で確認しあったり、園長・主任から伝えてきた。②③ともつながる部分であるが、職員の意識向上と連携により、対保護者関係で困難な場面を乗り越えられたり、信頼を得ていける場面がたくさんあったように思う。第三者評価にもそれが表れており、「満足」「ほぼ満足」が100パーセントとなっている。
  
- ② 明るく健康的な職場づくりを目指すについて
  - ・挨拶、気持ちのいい話し方、相手への思いやりなどが、ほぼすべての職員ができるようになっている。時折職員同士のところで不適切な言動が見られる事があるが、そのままにせず主任・園長から話を聞いたり指導しているため職員同士も意識した行動をとっている。（例えば、不必要な叱責場面を見た際に複数の職員が主任・園長に報告したり、その場で声をかけている）
  
  - ・園長室で職員が事務をする際に床に座って作業をしていたり、仕事時間と思いにくい場面があった。事務室を完備しそこでの事務を徹底をすることで解消された。
  
- ③ コンフリクト（衝突・葛藤・対立）を活用していくについて
  - ・思いやりや相手への尊重を前提とした中でも、自分の意見をしっかり伝えたり、互いの本音を話し合うことができるようになった。子どもの最大の利益を考えて意見することが悪いことではないという意識が全体に根付きつつあり喜ばしい。
  
  - ・問題の課題化（明確化）するところまでは根付いているが、必要に迫られないと解決方法を考えるに至らないところがある。どう意識づけをしていくのが課題。
  
- ④ ICT を適切に活用し、職員の業務軽減に努めるについて
  - ・コドモンに慣れ、操作の時間も少しずつ短縮してきているように思う。しかし業務時間削減とまで至ってはならず、仕事内容・量の適正範囲を見極めながら軽減につなげていきたい

- ⑤ 『時間』を意識し、限られた時間の中でより高い成果を目指す（研修・会議など）について
  - ・以前まで会議では開始時間ぴったりに始められなかったりする場面もあったが、まずは園長・主任が時間に始まり時間に終わるを意識することで職員の意識も変わってきている。
- ⑥ マニュアル作りを進めていく（一定程度の業務がスムーズに継承できるよう）について
  - ・マニュアル作りが全く進んでいないのが現状。係を決めているものの機能しておらず。

### 保育内容についての反省と課題

・子どもの人権を尊重するという点に関して、研修はもちろん日々の中でそれぞれが意識をもって声を掛け合うことで、特に正規職員の中では共有できているように思う。不適切に思われる場面では、主任をはじめ基本的にその日に声をかけ、そのままにしないよう心掛けたり、面談でしっかり話し合いを持っている。会議などで意見を言う職員が増えたり、向き合えていると思われる場面も増えた。

### その他課題

・事務作業がみどりの丘と比べ滞っている件（期限内に終わっていない、更新すべきものができていないなど）また園長と事務の間で報告を怠っているのではないかとということが指摘された。事務ノートを作り、報告・把握の徹底を心がけること・本部の事務を丘と分担することで少しずつ解消しているが、必ずやらなければならないことの失念・遅れが完全に解消しているとは言い難く、解決方法を模索中。

・リーダー・副主任・主任・園長とそれぞれの立場をそれぞれが意識したふるまい、が難しい場面がまだまだある。（その日の責任者を決めてあっても、小さな事まで主任・園長に許可・判断指示の連絡が来ることも多い）仕事内容や判断の権限をある程度明確にしてきたつもりだが、マニュアル化が必要なのもかもしれない。

・今年度は台風・コロナ感染症と予想を上回るものが多く、そのたびに危機管理を問われてきたように思う。温度差が園長同士・理事長の間でもあったように感じるため、子ども・保護者・職員・福祉を守るための緊急時対応計画・事業継続計画の策定が早急に必要と感じた。（第三者評価でも評価が低く出ている）

・社会福法人として地域に貢献する義務があると理解しているが、具体的に計画できずにいる。地域とのネットワークづくりに取り組みたい

### 全体的な反省

2018年度より掲げていた方針が2年間の取り組みの中で達成されつつある。

今後も新しい職員・非常勤の方にも子どもの人権や緑の家保育園が大切にしてきたことを伝えながらやっていきたい。

来年度は今までの課題は念頭に置きつつ、新たな課題を意識して、職員一同共にやっていきたいと思う。

## 【今年度の方針】

1. 新入職員を迎えた職種と協働し保育を考え合う場、話しあえる場を丁寧につくっていく。
2. 研修について
  - ① 5月の法人研修に「浅井春夫」先生を招き「子どもの貧困問題を考える」のテーマで学ぶ。添付資料の「かこさとしの生き方と子ども観に学ぶ」も興味深かった。その後部署交流をする。各園の保育内容の違いを知り改めて法人の保育方針を軸にして運営することの大切さに気付いた。1歳児保育の交流として丘から家に行き1歳児の環境や保育を学ぶ機会がありとても良かった。
  - ② 園内研修では新入職員が入職したことで、不審者対応・嘔吐処理・エビペンを使った研修をした。不審者対応では地域の防災担当者の指導で実際にどう行動するか実践。その後マニュアル作成をし、今後に生かす。
  - ③ 全国合同研究集会(新入職員対象1名参加)「主任セミナー」「給食セミナー」やキャリアアップ研修、都・区の研修などに積極的に参加。初めて3歳児担任をもった職員が「3歳児の発達」年7回の研修に参加する。クラス運営や子どもを見るポイントが研修報告し日々の実践では保育に生かされていた。  
\*後期の研修や職員会議・行事など、新型コロナウイルス感染の感染拡大の為に中止となった。
3. 人材育成について
  - ① 給食室…新入職員には1年間業務を習得する事を指導目的とし進めていく中で、食に関する基礎知識が不足している事が原因の誤食があった。(手順・食材の入れ忘れ等)  
リーダーを中心にその都度ミーティングをもち流れの確認や翌日の予習等を指導した。1年目は習得する期間ではあるが自身の努力がもっと必要と感じた1年だった。常に緊張感をもって職務にあたっている点は認め、他職種との交流がもっと深まるようにしていきたい。
  - ② 一人ひとりの子どもに寄り添い保育をしていきたいと向き合っているが、時として「こうあるべき」という子ども観や姿の受け止めが、実際の保育の関りの中で生かされない場面がある。職員会議で位置づけている「ちいさいなかま」の読み合わせの中で、子どもの思い・職員の保育観のズレ・保護者の気持ち等を学習しながら、保育の振り返りをしている。
4. 職員面談について
  - ① 年2回の面談を行った中で非常勤職員から「保育の共有」について問題提起があった。又子どもの見方の所で正規保育士の「子どもとの関わり方」に対するご指摘・ご意見を頂き各クラスのリーダーが保育の見通しや疑問に答え短時間ではあったがミーティングをもった。主任・副主任・リーダーの指導力を高め保育をより可視化していく事が今後の課題だ。

## 2. 安心・安全な保育環境を整える。

### 1. 施設・設備について

- ① 東門の門扉故障、施錠の不具合は予算の関係で修理にとどまった。
- ② 塀の修繕（区に申請）今期は対象外という事で申請せず。
- ③ ICT 化をスムーズに行うための無線 LAN 工事を新年度早々に行う。施設がコンクリート仕様の為 LAN が機能しづらいようだが以前より若干利用しやすくなった。
- ④ 共同募金 B 配分で EV 棟の出入り口に雨除けテラスの設置申請、承認された。雨天時の荷物の搬入や登降園時利用がよりスムーズになることが予想される。
- ⑤ ホール「だれでもトイレ」の前にテーブル収納庫を設置した。2 歳児がホールで食事・おやつを摂る為消毒液・水・おしぼりや口吹きを入れる収納庫として使用。計画にはなかったが衛生面を考え職員からの意見を反映させる。

### 2. 夏の健康について

- ① 大型プールの購入により、夏の遊びを充実させた。しかし猛暑日が続き今年度も暑さ指数の基準越えの日が多く実際には例年以下の利用となった。
- ② 気温の上昇により空調が機能せず。特に 2 階の幼児室は一面太陽の熱を吸収しやすく 30 度以上となった。午睡時は 1 階ホールや乳児室前室などを利用した。課題として暑さ対策をどう解消していくか、専門的、科学的な検証に基づいて環境の整備が必要だ。
- ③ 年 1 回放射能の測定し掲示をした。（2020 年 2 月測定 数値 0.05~0.06）

### 3. インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症について

- ① インフルエンザにより今年度も園児の約半数が罹患。コロナウイルス感染症の感染流行の兆しから加湿器・空気清浄機等を視野に入れ検討。最終的に 3 ヶ月のお試し後「オゾンで空気清浄機能付き」のコンパクトな機器を 3 機設置（1 年間のレンタル 0・1 歳児室・ホール・幼児組）
- ② 4 期の行事が新型コロナウイルス感染症の流行により最小限の運営となった。  
\* 第三者評価、利用者アンケートの中で「保育園の安全性」の項目の評価が低く、園庭の斜面・階段や既存の建物に関して常に「安全対策が必要」と感じていると思われる。より安全な施設をめざし定期的に修理・修繕が必要な箇所の整備をしていく。

## 3. 保育所体験、出産を迎える親の体験学習・行事等を通して地域と関わる

- ① 地域だより年 3 回発行。掲示板は担当者が季節の装飾・子どもの作品等工夫していた。又冊子の代わりに年間行事を見やすく一覧できるよう A3 にまとめ掲示した。
- ② 地域見学者が少なく年/25 件弱だった。
- ③ 「夕涼み会」「敬老の日の会」「餅つき会」等地域も対象にしているがほとんどが園つながりの卒園児や親戚等で広がりが見られない。
- ④ 育児体験が特定の親子で数件あった。出産で一時保育を希望の利用者で様々な行事に参加し 2 月~3 月にかけて出産要件で「一時保育」の利用があった。
- ⑤ 老人施設「虹の里」との交流が持てなかった。天候や感染症流行による中止、クラス取り組みで足が遠のいてしまっている。積極的な交流がもちにくい状況が自然にできてきているのを感じる。今後の課題だ。
- ⑥ HP でのアピールが少なく以前より写真の掲載がない 1 年だった。地域へのアピールを考えていく。

## 4. 「父母の会」や保護者と保育園の行事や運営を共に考える

### 1. 苦情対応について

#### 年長児の怪我対応

- ① 4月年長児の怪我の経過を懇談会全体会で説明し、園の散歩の在り方・遊具についての際調査を含め開園前の公園マニュアルを更に細かくチェックし再度マニュアル化していった。区に報告し事故報告書をする(大津市の事故があったことで区と散歩コースを検証。改善点あり)

#### 年長児の紛失対応について

- ① 秋中旬にあった女兒同士のゴムを巡る度重なる紛失で、保育園運営への苦情が続いた。・初期対応・プライバシーの問題・改善策の手立て・それが原因の保護者間トラブル等に発展した。一つひとつ誠意をもって対応し、最終的に緊急クラス懇談会をもつまでに至った。懇談の中で運営への理解もあり「卒園式」を無事に迎えるに至った。この件を教訓と今まで以上に保護者と向き合い、何事も慎重かつ迅速に進めていく事の大切さを学んだ1年間だった。
- ② 日々の保護者の意見などを気軽に利用できる「ご意見箱」の要望を受けホールに設置する。

### 2. 父母の会について

- ① 父母の会運営を支え積極的に保護者と関わる。特に中心になって行う「夕涼み会」では父母の会との連携が不十分であった。保育の中で一緒に取り組み保護者が負担を感じるのではなく共同している実感が持てるよう考えていきたい。
- ② その他、利用者アンケートの中に父母の会は負担、行事に関して運動会の協力などもあげられていた。行事を通してつながりあう保護者との距離感を感じた。「父母の会」と、どう繋がっていくか考えていきたい。

### 5. 第三者評価を受けて

#### 改善点

- ① 事業計画・事業報告など、統計から園の方針が経営層含めた正規職員に十分に伝わっていないと厳しい評価結果が出た。法人の考えや園長発信をもっと具体化していく事が求められる。
- ② 非常勤職員との運営共有に際し会議参加を位置づけていく助言有。会議の位置づけは難しいが運営を共有する為の発信はしていきたい。

#### よい点

- ① 研修計画の立て方が一人一人に向けての課題が盛り込んでありとても良い。中長期計画もこれを参考に立てていくといい。

### 5. 事務の簡略化を図っていく

#### 1. ICT化の導入から2年経過して

##### 保育・保健

- ① 保育士・給食・保健等それぞれの部署で事務処理全般をiPadで行う中で一人ひとりの処理能力も高まった。保健に関して今後コドモンの利用で重複する作業を簡略化していく。
- ② 指導計画・週案をはじめ幼児日誌(3~5歳児日誌)の配信、国・都・区又は保育園から発信したい内容を全クラスに一斉配信した。その他電話連絡を主にしていた保護者からの連絡も時間を決めてコドモン利用をし、各クラスでも登降園管理をするなど、徐々に活用できている。

③ 「散歩先の把握」が全体把握につながった。

監査で助言頂いた散歩先の確認もコドモンで管理する。①出発時間②帰園時間予定/実際の帰園時間③携帯の所持や人数等をシートに記入し把握した。帰園予定時間を大幅に過ぎたクラスや緊急に知らせたい時は保育園から連絡を入れるケースもあり、把握や反省等に生かした。

④ 昨年度と比較しペーパーレスにつながっている。今後、行事や保育運営等の工夫が必要とされる。

\*課題…1年かけて児童票の中身を検討しコドモンで記録ができるようにしていく。又普段の運営の中でICT化が可能な書類を検討し実現していく。(法人共通)

## 【資料】

### 2019年度園児数

区分/月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0歳児	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	108
1歳児	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	131
2歳児	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	144
3歳児	12	11	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	143
4歳児	12	12	11	12	12	12	12	12	12	12	12	12	143
5歳児	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	144
合計	68	67	67	68	68	68	68	68	68	68	68	68	813

#### 一時保育

区分/月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0歳児									5	2	10	19	36

#### アレルギー除去・代替食

区分/月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12

#### 延長保育利用

区分/月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
補食	38	34	33	41	36	58	48	55	28	32	34	34	471
夕食	32	27	37	40	42	15	28	42	35	34	20	12	364

保育体験 18名

年末保育は今年度より行なわず。